

# 死刑について考えてみませんか

死刑で罪は償えるのでしょうか？

「ただ、暖かい家庭が欲しかったのです」  
それが、唯一Yの語った犯行の理由でした。

Yは父を知らずに生まれた。母も生まれたばかりのYを置いて去った。  
Yの養父母は、町工場を経営しながら一生懸命にYを育てた。  
Yの欲しがるものは何でも買って与えた。そして食事の間も惜しんで働いた。  
小学校にあがってからのYは、いつも一人でご飯を食べた。

成人したYは家業を手伝うようになった。そして婚約をした。  
しかし相手の女性は、指輪代わりにプレゼントした時計をつき返して、言った。  
「なぜ先に言ってくれなかったの。あなたは養子じゃないの」

Yはぐれ始めた。言葉巧みに女性を引っかけ、遊びまくる。  
高級エリートを装った。Yは嘘がうまかった。  
家業にも身を入れず、借金を重ねた。  
真面目一筋の養母は、思いつめて自殺した。それもYには、心の痛手を増しただけだった。

嘘で自らを塗り固め、近づいた女性に、本気で結婚を夢見た。  
嘘はすぐにばれ、進退きわまって女性との逃避行を企てた。  
彼女はついてきた。しかし親戚知人が集まって、二人を引き離し、彼女をかくまった。  
いつも周囲に引き離される。彼は包丁を持って、彼女をかくまった家に行った。

「彼女に会わせろ。」しかしかくまった婦人は、彼に帰れと言った。  
その対応に逆上し、会わせまいとする人たち、そして隠れていた彼女を殺害。  
「自己中心的、残虐な犯行は許し難い」と裁判は死刑。控訴、上告して死刑は確定した。

確定直前に、ある夫婦がYとの養子縁組を申し出ました。  
しかし、東京拘置所は、Yと夫婦との面会・文通を拒みました。  
「彼らは監獄の処遇改善運動を主催している。Yによからぬことを吹き込むのではないか」

Yと養父母とを面会・文通させろという訴訟がおこされましたが、その判決が出る直前の九四年一二月、Yは処刑されたのです。

さる七月一八日、プルミエで、地元の方々を含む約二〇名で集い、Yさんのことを扱ったテレビ番組『女神の天秤』のビデオを観、養父母になられた方のお話を聞きました。  
「どんな人間だったのか、判決はすべてを切り捨て余りにも形式的」「死刑が本当に償いになるのか」さまざまな感想が述べられました。  
またこのような集いをもちたいと思います。次の機会にはあなたもぜひどうぞ。